

令和2年度 学校経営計画の重点（附属中学校年度末評価）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
質の高い学力をはぐくむ	授業力の向上	I C Tを活用した授業と評価のあり方について検討する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を導入し各授業で活用している。 ・学びの継続のためオンライン機器の活用と習熟を全学年で進めている。 ・校外研修や外部講師の活用が制限され授業計画の変更が続いた。
		学習指導要領改訂に応じた指導方法や評価の改善について具体的に検討する。	B		
	知的好奇心や探究心の育成	京都大学総合博物館や京都学・歴彩館との連携事業を推進する。	B	B	
		探究的な学習を取り入れ、「洛北Step Up Matrix」を意識した洛北サイエンスを実施する。	B		
	学力の定着の検証	学力テストなどの学力推移状況を資料として蓄積するとともに、多様な観点から生徒の学力をとらえる。	A	A	
		定期考査のまとめや分析を行うことによって掌握した課題に対する方策を集約し、共通理解を図る。	A		
豊かな人間性をはぐくむ	道徳の時間の充実	「特別の教科 道徳」の評価について、多面的・多角的な見方へ発展したものとなるようにする。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止と迅速な対応に努め、差別を許さない環境づくりに努めた。 ・ICT機器利用にあたり教員間の情報交換が盛んになり授業改善に結びついた。 ・各種検定や大会参加が制限された。
		学級や学年を越えて授業を相互に参観し、授業改善に生かす。	B		
	人権感覚豊かな学校環境づくり	いじめの未然防止に努め、いじめが起きた場合には迅速かつ適切な指導を行う。	A	A	
		人権教育年間指導計画を改善し、普遍的なアプローチと個別的な視点からのアプローチによる人権学習を充実させる。	A		
		教職員のコンプライアンス意識を一層高めるための啓発を適宜行う。	A		
	チャレンジ精神の涵養	各種検定や全国レベルのコンテストや大会への積極的参加・応募を促し、その成果を学校全体で認め合う。	A	A	
健全な心身をはぐくむ	生活規律等の確立	朝礼や学級活動、集会等で、服装、挨拶、生活習慣などに関する指導・啓発を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育を速やかに実施した。 ・検温、健康観察を続け、健康な体作りを指導した。 ・全校集会は実施できなかった。
	健康安全や防災に関する教育の充実	保健体育などの教科学習を中核として体系的な保健教育を充実する。	A	B	
		災害に適切に対応する力を培うために、体験的な防災学習を実施する。	B		
	情報モラル指導の充実	情報社会の中でのルールやマナーを身に付けさせるために情報モラル教育を推進する。	A	A	
学校の教育力の向上	一層の開かれた学校づくり	府立中学校どうしの交流の場を活かし、情報の共有と互いの活性化を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスを学校紹介動画で代替した。 ・府立中高一貫ネットワークをオンラインで実施した。 ・学校再開後に各種行事予定を組み入れたことから、教員の負担が増加した。
		ホームページの充実等により、保護者・地域等に対して本校の情報を発信し、教育内容への理解を深めてもらう。	A		
	チーム力の向上	スクールカウンセラーや各種関係機関等の協力のもとでチーム学校を推進する。	A	B	
		学校組織マネジメントに関する実践的な研修を行う。	B		
	各種条件整備	土曜学習や夏期スクール、部活動の運営方法を見直し、学習活動の効率化と教員の負担軽減を図る。	B	B	
		校務システム等の利用により、生徒の個人情報の管理と効率的な事務処理の体制を整える。	A		